

PDCAチェックシート

実施年度	令和 7 年度			
事務事業名	ため池点検調査事業(市単独補助事業)		担当課名	農林水産課
【Plan】計画		【Do】実施・実行	【Check】点検・評価	【Action】処置・改善
■目的 ため池点検調査実施により、ため池の現状を調査・把握するとともに効率的に管理し、被害を事前に想定することで、ため池防災・減災対策の基礎資料とする。		■具体的取組 平成25年度より継続的にため池点検調査を実施している。 調査内容は、豪雨発生時及び地震発生時における対策の必要性の有無を診断し、評価は必要性が高い順にA、B、Cの3段階で判定している。 ☆評価基準 ①豪雨発生時(既往最大雨量425mm/既往最大時間雨量94mm) ②地震発生時(既往最大震度4) ■インプット(投入金額等) 事業費等 ○土地改良施設点検委託料 (ため池点検調査業務) ○H25～R6決算： ￥15,475,000— ○R7繰越分決算： ￥2,750,000— ○R7現年分決算： ￥2,783,000— 合計 ￥21,008,000— ■アウトプット(数量等) 実施回数等 ○H25年度～R6年度までの12年実績 調査実施数:596箇所 ○令和7年度実績数:97箇所 繰越分実績数:50箇所 現年分実績数:47箇所	■成果指標の具体的検証結果 (インプット・アウトプットに対するアウトカムの達成状況はどうか、また、達成できていない場合の原因は何なのか等の検証結果を具体的に記載) ○当初予定していたため池調査数(715箇所)を網羅し、現地確認不能なため池22箇所を含む全数について調査を完了した。 本調査は、現地確認を含む豪雨及び地震対策による緊急整備度調査である。調査・実施により、一旦1巡目の調査が終了し、ため池の有無や豪雨・地震発生時における整備対応の必要性が把握できた。 ○ため池点検調査結果 (令和7年度事業実績数) ①豪雨発生時(693箇所) A:88箇所 B:182箇所 C:423箇所 ②地震発生時(693箇所) A:53箇所 B:91箇所 C:549箇所 (評価区分) 評価A:緊急整備の優先度が高い 評価B:早急な整備が望まれる 評価C:整備の緊急性は低い ③現地確認不能ため池(22箇所)	■検証結果を受けての具体的対応 点検調査結果は、ため池機能の経過観察や維持管理、また防災・減災対策の判断基準として重要な基礎資料となる。 対策事業の実施に当たっては、緊急整備度の高いものの「防災重点農業用ため池」に指定されていないため池については、別途事業実施に向けた検討資料として活用していく。 併せて、県やため池サポートセンターに情報を共有し、今後の対策を検討する。 また、今回の調査で明らかになったため池確認不能なため池(22箇所)については、管理者に確認を取った上で、実態に合わせて「ため池廃止」の手続きを進めていく。 引き続き、緊急整備度の高いため池を優先して2巡目の点検調査を実施し、経過を観察するとともに適宜対応していく。 ■評価
■成果指標(アウトカム・KPI) ※ 【目標値】 ○市内全ため池数 715箇所 ○令和6年度まで調査済数 596箇所 (実施年度：H25～R6) ○未調査実施数 119箇所 ○令和7年度(繰越+現年) = 119箇所 内訳：繰越50箇所 現年47箇所 現地確認不能22箇所 【達成値(R7事業実績値)】 ○令和7年度繰越分事業 調査実施数 50箇所 ○令和7年度現年分事業 調査実施数 47箇所 ○令和7年度事業達成見込率 97箇所/(119-22)箇所=100.0% ○令和7年度事業まで全体達成率 693箇所/(715-22)箇所=100.0%		現状維持		

※KPI…重要業績評価指標。Key Performance Indicatorの略。アウトカムの達成度を具体的に示す指標(数値)をいう。